

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 8月3日

【評価実施概要】

事業所番号	3770500290		
法人名	有限会社ルネス		
事業所名	グループホームたんぼぼ		
所在地	香川県観音寺市吉岡町960-10 (電話)0875-24-3661		
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年6月16日	評価決定日	平成21年8月3日

【情報提供票より】(21年4月1日事業所記入)

開設年月日	昭和(平成) 14年 5月 1日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	23人	常勤	15人, 非常勤 8人, 常勤換算 19.9人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	15,000円+実費	
敷金	有()円		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900円	

(4)利用者の概要(5月13日現在)

利用者人数	26名	男性	4名	女性	22名	
要介護1	12名	要介護2	4名			
要介護3	9名	要介護4	0名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	82歳	最低	61歳	最高	98歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	三豊総合病院、今川内科病院、久保歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

県道観音寺池田線を西に入った田園住宅の一角にあり、向かい合った平屋1階建の趣ある明るい3施設である。自家菜園や、民家、アパート等とコミュニティ化した静かな環境で、利用者が住み慣れた地域で安心・安全に暮らせるように支援されている。玄関は自由に入出りでき、職員は利用者の思いに沿った外出支援を積極的に行っている。かかりつけ医との連携や看護職の健康管理は家族や利用者の信頼を得ている。職員は理念をいつも念頭に置いて、一人ひとりの思いやできることを大切にし、利用者がゆったりと自分らしく過ごせるように質の高いサービスの提供に努めており、今後、さらにサービスの向上が期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価後は、理念を職員で話し合い共有し、法人の理念の上にさらに具体的な理念を作り、その理念を実践する行動目標につながり、日々の支援の中で実践、確認、評価に活かしている。地域との付き合いは更に取り組み課題としており、運営推進会議での情報を取り入れたり、事業所便りを地域へ配布し、関係機関へ出向いて説明を継続している。また、職員が地域の行事参加機会を増やせるよう努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で話し合いをして自己評価に取り組み、管理者がまとめている。ミーティングでは課題を討議して、解決のための過程を共有する等全員で協議して取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、老人クラブ委員、家族、当事者、市職員等で3~4カ月毎に開催されており、事業所の利用状況、行事、事業所の取り組み、課題等の報告と支援の実際を共に見てもらい理解と理解者を広げるなごやかで楽しい「事業所活動参加型」と、検討委員構成で客観的な意見や情報と協力を得る「会議型」により開催されている。どちらも事業所の支援や課題等が具体的に協議されており、今後回数を増やし、さらに生活を支えられる支援ができるよう期待される。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月の家族への連絡時に、利用者の生活状況を報告し、たんぼぼ便り等でも報告している。毎月の利用料の支払い時も面談の機会とし、面会時には受け持ち者、管理者や計画作成担当者も必ず家族の意見や思いの把握に努めている。常に得られた情報は報告書で管理者・職員間で共有・周知して、迅速な対応に努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>イベント時には施設を開放したり、地域の行事へ参加、事業所の行事への協力・参加等が少しずつ広がってきている。また、毎日の散歩等で出会う地域の方への声かけやボランティアの受け入れの推進に加えて、防火訓練への地域からの参加、災害時における地域との相互協力についての話し合い等、さらに多方面での取り組みが期待される。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員で話し合っ、法人の理念の上に、事業所の理念を見直し、「ありのままを受け入れて家庭的な雰囲気、笑顔あふれるケアを目指します」とし、地域密着型サービスとしての具体的な理念をつくりあげている。		事業所独自の理念を作り上げ、日常の支援の中で具体的に実践する事を確認し、事業所独自の記録、評価、再実践のサイクルを取り入れた取り組みは、地域での事業所の発展が期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践行動目標を5項目に明示し、その人らしさを大切に、一人ひとりに寄り添い、馴染みの関係づくりができる支援に努めている。日々の支援の中での実践を確認し、意見交換やミーティングを重ねている経過が記録され、支援の向上に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の散歩や買い物時に挨拶する等地域とのつながりが広がるよう努めている。地域行事参加、事業所のイベントの開催チラシ配り、ボランティアの受け入れ等交流を広げるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が話し合いをして、意見を出し合っって自己評価に取り組み、内容を共有できている。さらに、評価のねらい・課題等はミーティングの中で継続して確認し支援の質の向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3~4カ月毎に開催されており、家族、利用者、老人クラブ、市包括支援センターからの委員で構成され、委員の協力は得られている。事業所の取り組みの状況、支援状況を理解してもらおう参加型と、行事報告や課題の情報交換や話し合いの会議型を取り入れている。	○	今回の自己評価の内容、外部評価の結果を説明し、事業所の取り組んでいることや改善していきたいことについて質問・意見・要望をもらい、双方向的な会議が望まれる。改善経過の話し合いを一つずつ積み上げていき、サービスの向上に活かすためにも、2カ月毎の開催が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議での助言と指導、地域包括支援センター連絡会での情報交換等をサービスの質の向上に活かしており、常に管理者・ケアマネジャーが機会を捉えて運営のアドバイスや情報交換できる関係作りに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料の支払い時や面会時に、担当者から利用者の健康状態や生活の様子を写真や小遣いの使用明細等を添えて報告し、季節毎に発行するたんぽぽ便りでも生活状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受け付けについては、家族によく説明できており、運営推進会議での家族の意見、面会時や連絡時に把握した情報は報告書、ノート等に記載して職員全員が共有するよう努めている。今のところ「苦情BOX」には特に苦情は出ていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	いつもの顔馴染みの介護スタッフ支援をモットーとし異動をしていない。法人の中でのやむを得ない異動の時は最小限になるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は、職員育成の重要性を認識しており、新人研修計画、ホーム内年間計画が実践されている。外部研修は積極的な派遣に努めている。受講後は毎月のミーティングで報告や勉強会の講師を務める等職員の質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム事業所との意見交換や情報交換は管理者が代表で行い、相互評価事業にはリーダーが参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前面接、段階的な利用者の反応や状況に合わせて家族と話し合い、馴染みの関係ができるまでは自由な利用時間や生活習慣に合わせた時間配分で繰り返し支援できている。また、入居1カ月後に介護計画を見直して安心して暮らせるように家族と連携しながら柔軟に支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いを共感し、理解して十分に受けとめるよう努めている。人生の先輩として尊敬し、個別性を尊重して生活の喜怒哀楽を共にし、支え合える関係づくりをモットーに取り組んでいる様子がうかがえる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしくを基本に、利用者の居場所を作るように心がけており、利用者からの希望、意向の聴取や家族から情報を握し、定例のミーティング・引き継ぎ時の職員間での話し合いで共有・周知し、利用者本意の支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意見や希望を反映した介護計画書に取り組み、担当者がアセスメントし、職員全体でモニタリング、カンファレンスを行い、日常の支援について可能な限り利用者主体の介護計画を話し合っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しを職員全員で行い、日々のケアで気づいたことはすぐ話し合いができている。利用者の状況変化時には家族・医療関係者等とも話し合っ随時の介護計画の見直しもできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の状況や要望に応じて、法人の機能を十分に活かしたユニット間の相互訪問・行事参加、食事作りの共同作業、デイサービスの機能維持、機器利用、医療機関通院支援等の対応を工夫している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の関係を大切に保ち、家族と相談した受診支援ができています。また、協力医院の定期往診(内科、歯科、皮膚科、整形外科)もあり、受診結果についても利用者と家族と情報の共有にも努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点では対象者はないが、看取りやターミナルについて事業所の方針を全職員に周知しており、可能な限りの支援をするが、重症処置が必要になったら、支援ができない方針であることを職員が共有している。利用初期の段階で利用者と家族に説明し家族・利用者の希望を受け入れられるよう、対応について話し合いを続けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全員に、研修や日々の連絡・業務上の指導等で周知に努めている。個人情報保護については電話や来訪者対応、記録等の取り扱いについて、利用者一人ひとりを大切に、誇りやプライバシーを守る声かけやトイレ誘導等の対応がうかがえた。		プライバシーに配慮した声かけ・態度については、職員同士が話し合い、マンネリにならぬよう、自分の態度を振り返ることができるような努力が続けられており、さらに、質の向上が期待される。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な生活の流れの中で、利用者の意向や生活リズムに沿うように支援している。食事やレクリエーション時は利用者に声をかけてから支援できており、利用者の意志を確認しながら、利用者のペースを大切に、その人らしく生活できる支援がうかがえた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れて献立委員会で栄養士と毎月計画し、各ユニットで調理、味付け、盛りつけ、配膳、片付け等に利用者が自由に参加できるよう声かけをしている。朝食以外は、ユニット間で副食の交換があり、豊かなメニューと食材で利用者が楽しめている様子がうかがえた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴時間は、希望に合わせてるように努めており、入浴の一連の支援を一人の職員で対応する等安心と安全の見守り入浴の支援ができています。2ユニットで朝の入浴支援がうかがえた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や希望で、談話、料理、縫い物、習字等の得意分野で力を発揮できるよう支援している。また、興味あるものや利用者の諸能力を生かせそうな仕事を頼み、感謝の言葉を添えて、楽しみながら役割も果たせるよう支援がうかがえた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出支援は、利用者の希望に応じて、日常的に散歩、買い物等気分転換やストレス解消、五感の刺激の機会と捉えた支援ができています。話し合いでドライブ、外食等を気候に合わせて柔軟に支援ができています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	いつでも自由に入出入りできるよう日中開放した玄関には、ベンチや花があり、心の安定した生活の支援ができています。利用者を見守りの中で、一人ひとりがどこにいるのかを把握して、鍵をかけないケアの工夫がうかがえた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災・地震・水害等の対策マニュアルが作成され、職員に周知されている。火災避難訓練は避難誘導を家族、地域の方に参加して見て頂き、協力と理解を得るように努めているが、更に地域の方やボランティアに協力を得られるよう取り組みが望まれる。	○	運営推進会議で災害時の対策を具体的に課題として協議し、地域や近隣の方の協力が得られる方法や、地域の防災訓練等にも参加して相互の協力体制の中、事業所としてどのような役割が果たしていけるか、さらなる取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合わせた調理が工夫され、利用者のペースで摂取できるように支援できている。食べる量や水分の摂取状況・排泄状況等も一日を通じて把握できおり、看護師による健康状態の管理も工夫されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用生活空間は中央の大きな天窓と穏やかな間接採光であり、木調のたたずまいは落ち着いている。不快な音や臭いもなく、季節感や生活感を感じられるよう花や小間物がかわいく置かれ、利用者の作品等も月の行事を思い出させる。自由に休める空間や椅子等の調度も品良く、安らいで過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力の下に、利用者の生活スタイルに合わせた好みや馴染みのものを置き、部屋の入り口は利用者の笑顔の写真とネームがあり、落ち着いた雰囲気です。閉塞感も少なく、採光や調度品も居心地良く、ゆったり過ごせる工夫がなされている。		